

より良く生きる ― 出居清太郎先生の世界 ― 第29回

山 本 博 也

「生かされている」の自覚

本稿第25回から前回まで4回にわたって「二つ一つの世界観」というテーマをとりあげました。世の中は基本的に「二つ一つ」の関係で成り立っており、したがって一方だけに偏った考え、行動をとらないこと、両方の調和をはかることが大事だということでした。

そうした「二つ一つ」の関係の中の最も基本的なものの一つが、人は「生かさ

れている」ということと「生きる」ということの「二つ一つ」でした。

この「生かされている」と「生きる」との関係については重要なことがあるように思います。それは「生かされている」ことを自覚できるのは、「生きる」ことを通してだということです。

〈A〉同じような一日だが

立派な人生を歩んでいる人も、だんだん落伍していつている人も、やはり三度の食事をし、仕事をしたり遊んだりしている。：ちよつと見た目には、二人の一日に大差はありません。それがいつしか大きな差になる。

それは、生活の一コマ一コマが、魂と心と肉体の生成発展になっているかどうかの違いなのです。お酒一杯飲むにしても、心身を養ったか暴飲になったかの違いです。苦しい時にもほほえみを失わなかったかどうかの違いです。

……今日一日を修め養って終わる時、本当にこれでよかったのだと思えるのは、修め養った一日が、また生かされた一日だったと悟れるからなのであります。

（出居清太郎先生のことばから）
〈B〉春を楽しむに丹精する

親子兄弟が仲良く暮らしている姿は美しいものでして、真に人の和は花です。

平和な家庭にはまた新しい花の芽も育ちます。この花を咲かせるためには、両親の長い間の努力があり、おじいさんお



カンナ 大西 恵

ばあさん方の功績もあります。そしてもっと大切なのは、いのちの親からいただいた種・根・糧のあったことです。

親の努力を認識している方は若い人にも多いのですが、このいのちの親からいただいた種・根・糧にまで目を向けている方は少ないようです。

いっどんな種がまかれるか、それはいのちの親にお任せしていればいいのです。皆様が行うことは、しっかり根が張るように、心を耕したり、霜や虫に痛められ

ないように丹精したりすることです。

環境に順応して、良い方に、良い方と解釈する、これが人の行う丹精です。冬が来て、花が枯れてしまった時にこそ、春を楽しみに丹精してください。

皆様がたとえ気がつかなくても、陽光があまねくそそがれています。時期が来れば種はきつと花を咲かせます。咲いた花に、いのちの親の恵みを見いだした時、本当に感謝ができるのです。

(出居清太郎先生のことばから)

■「生きる」ことを通して感じる「生かされている」

〈A〉には、「修め養った一日が、また生かされた一日だったと悟れる」とあります。つまり、「修め養う」一日を過ごした時に、

「生かされた」と思えるということです。特別な修行をしたり、特別な行いをしたということではなく、飲食をしたら、暴饮暴食にならないようにし、苦しいことがあってもほほえみを失わないようにする、そのように「生きる」ことの中で、いい一日だったな、よかったなと感じる――それが「生かされている自覚」ということではないでしょうか。

〈B〉には、「咲いた花に、いのちの親の恵みを見いだした」とあります。つまり、いい結果が得られたな、いい境遇になったなと思えた時に、その過程で与えられた環境、出会った人、遭遇した出来事などに対して、「いのちの親（＝大いなるはたらき）」の恵みだったと感じられるということです。環境に順応して、不満を

持たず、物事や人の言動を良い方に解釈

する、そのようにして「生きる」ことの

中で、大きな恵みをいただいたとを感じる

——それが「生かされている自覚」ということではないでしょうか。

この「生かされている」自覚は、頭で考えて知るものとは異なります。人は空気が水なしには生きられない、体内の器官は自分では動かせない、衣食住のすべてを自分では調達できない——だから人は生かされている、というのとはひと味違う、個人的な心の思いだと思います。「生かされている」と自覚することと「生きる」こととは別のことではなく、「生かされている」という自覚は、「生きる」こと、しかも「良く生きる」ことを通しておのずから生まれるものだとい

いうことです。

■「生かされている」自覚につながる「生き方」を

逆にいえば、「生かされている」と思えることにつながるような「生き方」をすることが大事だということになります。暴飲暴食や不平不満の生活ではなく、他人を否定しないで、つねにほほえみをもって、広いあたたかい心で「良く生きる」ことによって、自身の成長が感じられ、よい実りに恵まれる——そのときには、自分の手柄を誇る気持ちではなく、謙虚な気持ちで、なにか大きな力の恵みを感じるものなのではないでしょうか。

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1
修養団捧誠会 <https://www.hoseikai.or.jp>